

◎景気ウォッチャー調査[2024年2月]

2024年2月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を4.0ポイント上回る49.4となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「近所の片側交互通行の工事がほぼ終わりつつあるため、来客数が増加している。」(コンビニ)、「年末年始から、明らかに人の流れが活発化している印象がある。」(百貨店)等の理由から、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を5.9ポイント上回る49.3となった。

企業動向関連は、「良くなっている」の回答の割合が減少し、「大口注文は納期が先送りとなり、通常注物品も受注量に変化がなく生産量は低水準が続いている。」(窯業・土石製品製造業)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を3.1ポイント下回る46.9となった。

雇用関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「慢性的な人手不足感からか、1名増員枠に対し、優秀な人材であれば2名でも採用するというケースも増えてきた。」(民間職業紹介機関)、「2025年採用に向けて求人依頼が増加傾向にあり、企業側の採用意欲も高いとみられる。」(学校)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を4.4ポイント上回る54.4となった。

	2月	1月	前月差
合計	49.4	45.4	4.0
家計動向関連	49.3	43.4	5.9
企業動向関連	46.9	50.0	-3.1
雇用関連 (参考値)	54.4	50.0	4.4

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を0.5ポイント下回る52.6となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「インバウンドが増加しており、国内需要もあるため、ゴールデンウィークの盛り上がり期待できる。」(百貨店)、「春になれば、今まで新型コロナウイルス感染症で中止になっていた地域イベントが今年はいろいろと開催されることから、来客数は増えてくる。」(観光型ホテル)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を0.3ポイント上回る52.9となった。

企業動向関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「資機材の価格上昇や給与の上昇等を価格転嫁するのにも限度がある。」(建設業)、「受注量や販売量の動きが悪い。」(一般機械器具製造業)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を6.3ポイント下回る44.5となった。

雇用関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「大手自動車メーカーの生産再開が確実に製造業にプラスの影響をもたらす。」(職業安定所)、「大企業を中心に、多くの企業でベースアップや定期昇給が期待され、また、行楽シーズンとも重なることから、個人消費の拡大が見込まれる。」(民間職業紹介機関)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を5.3ポイント上回る66.2となった。

	2月	1月	前月差
合計	52.6	53.1	-0.5
家計動向関連	52.9	52.6	0.3
企業動向関連	44.5	50.8	-6.3
雇用関連 (参考値)	66.2	60.9	5.3